

下伊那地方フロラ新発見 I

浅野 一 男

K. Asano: New plants found in Shimoina District, Nagano Prefecture I

3. ミズバショウ *Lysichiton camtschaticense* (L.) Schott

長野県内で既知のミズバショウの産地は上水内、下水内、下高井、北安曇、南安曇、東筑摩の各郡で、今までに確認されている最南の産地は御嶽山の麓、木曽郡開田村であって、木曽山脈と赤石山脈からは未知であった。ところが、1986年8月2日に木曽山脈の太平峠（飯田市太平）に近い標高約1280mの地点で、同年8月6日には下伊那郡根羽村と愛知県北設楽郡津具村の境に聳える茶臼山（標高1415.4m）の東麓にあるアテビ島地籍（下伊那郡売木村）の標高1160~1240mで自生地を発見した。

前者は小溪に沿った長さ50mほどの細長い地域に大小2つのブロックに分れて、40株余り生えていた。周辺はコバノフユイチゴの大群生地である。

後者は500m位の範囲に分散して、自生地が4ヶ所あり、それぞれ46株、27株、8株、6株の計87株を確認した。地元売木村が立てた観光案内板にはザゼンソウ自生地と表示されていた（しかしミズバショウ自生地に生えていたザゼンソウは2株だけであった）。また根羽村や売木村の人々に「茶臼山にミズバショウが生えているか。生えているという話を聞いたことがあるか」と尋ねてみたが、すべて「生えていない」との返事だった。大原準之助著「茶臼山高原と周辺の植物」(1984)や、山田英吉著「北設茶臼山の高等植物」(1965)にも記載がない。

アテビ島一帯はクロベやセリバシオガマの南限自生地、ダンドタムラソウの自生地として、夙に注目されているところである。また一つ注目すべき植物が加えられた。

茶臼山は天龍奥三河国定公園に指定されていて、観光開発が進み、多くの観光客が初夏から秋まで訪れている。それにもかかわらず、今日まで自生地を知られずに来たのは、花期を過ぎてから人々が訪れていたためだろうか。まさに僥倖といわざるを得ない。これを公表することによって破壊されるのではないかと危惧をいだきながら、報告する次第である。

4. イイギリ *Idesia polycarpa* Maxim.

関東地方から九州までの暖帯林に生活している本種の長野県内の分布については、奥原弘人(1971)

が報告した木曽谷が知られているだけである。ところが1986年11月22日、下伊那郡天龍村坂部の愛知県境から数百m入った地点まで、県道1号線沿いの天龍川に臨む斜面に、3本のイイギリが散生していた。いずれもすでに葉は落ちていて、房状の赤い実をたわわにつけていた。

5. アオフトバラン *Listera makinoana* Ohwi

本州、四国、九州（祖母山）の暖～温帯林下に生ずる植物だが、長野県内では北安曇、木曽、上伊那の各郡からの報告があるのみで、下伊那では未知であった。根羽村や阿南町の依頼で植物調査をここ数年来進めてきたが、その結果、三信国境地帯の阿南町新野から根羽村にかけて自生が多いことがわかった。特に豊富な自生地は新野の殿林から井林にかけての地域と、根羽村の茶臼山である。

6. ヤマトキホコリ *Elatostema laetevirens* Makino

北海道西部から九州北部の暖～温帯林内に生ずるが、長野県内では分布が少なく、上水内、東筑摩、木曽の各郡しか知られていなかった。1985年8月阿南町新野の伊豆神社の社叢で見出した。愛知県津具村には多く、ウワバミソウよりうまいといって食べているが、個体数が少ない新野では全く利用していない。

7. サクラソウ *Primula sieboldii* E. Morr.

「下伊那の植物中巻」には下伊那郡南信濃村青崩峠の記載がある。青崩峠へ過去何回か行ってみたが、湿原すらなく、確認できなかった。1986年5月3日下伊那郡上村で自生地を確認した。生育地は4ヶ所に分かれ、ちょうど花期で濃桃色の絨毯を敷きつめたようで実に美事であった。詳細な生育地を記すべきであるが、盗掘乱獲されるのが明らかなので伏せておく。

【植物ニュース】102. シロバナナンテンハギ *Vicia unijuga* Al. Br. (白花)

ナンテンハギの純白花品。1986年6月28日。東筑摩郡明科町上生野。2株あった。土屋守氏の採集記録（本誌15号p. 26, 軽井沢, 1981年）がある。

（横内文人）